登場人物

男1	籠持ち・主人	砂糖・父・部長・露出狂
男2	はつ	化粧
男3	客・女郎1・下女	電球・母・トラ・女・介護士
男4	役人1・女郎2	傘回し・男の子・おばあちゃん
男5	九平次	ワカメ・オオカミ
男6	長蔵・役人2・女郎3	歯磨き・犬
男7	徳兵衛	モンスター

本作において全ての役は男性が行うものとする

男1 甘さがたりねえんだ！ばかやろう！
男達 はい！

と、男1は全員に砂糖をぶちまける。激しく投げる。男達は嬉々として浴びる。
砂糖は客席まで飛び散る。メレンゲが出来上がる。

男2 できました！

男1 よし！（食べる）甘い！！

と、男2、3を残してほか退場。男2はボールを横に置き座る。

2・化粧

電球のみの灯り。男3が電球を引っ張り、息の上がっている男2を色々な角度で照らしていく。下から上に、上から下に。それはとても官能的である。恍惚とした表情で男2は鏡を見て、化粧をしていく。携帯電話の音がする。

女 もしもし？ さとみ？ うん。え、どうしたの？ うん。あれ？ あっ…

女、アイラインを引くのを失敗する。

女 ん？ あ、なんでもないなんでもない。なんかちょっとアイラインミスった(笑)でも、まじかー。あれって明日だっけ？ えー、絶対無理なんだけど。え、さとみはもう終わったの？ うわー、真面目ちゃんかよ(笑) え？ うん。まあ、大丈夫。なんとかする(笑) いや、ほんとありがとね。うん。うん。はい。じゃあまたね。はい。

女、電話を切る。

3・傘返し

と、足音がするので男3は音の方向を照らす。そこには可愛らしい傘を回しながら男4が来る。傘の先には細い糸で人形がつながれている。人形は観音像に見えなくもない。傘を回しながら男は舞台を後にする。

4・化粧その2

化粧を依然している。男2は、最後に唇に紅を引く。そして、女になる。

第一幕の1

舞台下手。はつと客の男がいる。

と、上手から男二人の足音が聞こえてくる。客は電球でその方向を照らす。

二人の声が聞こえる。一人は徳兵衛。もう一人はその部下、長蔵。客はあわてて電球をもとの位置に戻す。と二人とすれ違うように退場。

徳兵衛 なあ、長蔵。

長蔵 なんですか、徳さん？

徳兵衛 お前、薄口醤油と濃口醤油どっちが塩分多いか知ってるか？

長蔵 なんですかそれ。バカにしてんですか？ そんなの塩が少ないんだから薄口ですよ？

徳兵衛 お前はバカだなあ、長蔵。

長蔵 ええ？

徳兵衛 薄口と濃口はな、薄口の方が塩分が多いんだよ。

長蔵 ええ、そんな。じゃあなんで薄口なんだよ？

徳兵衛 それは自分でちゃんと勉強しなきゃダメだろ。お前だって醤油屋なんだからそのくらい知っておかないと。

長蔵 はい。

徳兵衛 ちゃんとものを知らないとな、長蔵。悪い奴に騙されちまうんだぞ？ わかってるか？

長蔵 わかってるよ。

徳兵衛 俺たちは商人だ。商人の仕事は金稼ぎ。金は取られちゃいけないんだよ。

長蔵 わかってるって。

徳兵衛 キャップのような帽子をかぶっている。と、はつ、徳兵衛たちに気づく。

はつ ん？ あれは徳様じゃないか！ これ、徳様！ 徳様！

と、徳兵衛もはつに気づく。

徳兵衛 お、あれはおはつじゃないか。

長蔵 え。

徳兵 長蔵、わかるよな。

長蔵 まじですか。

徳兵 頼むよ。

長蔵 しょうがないなあ。わかりましたよ。お得意さん回ってくればいいんでしょ？

徳兵 さすが。わかってるね。

長蔵 今回だけですからね。

徳兵 あ、あと、安土町の染物屋で金受け取るのわすれるなよ。

長蔵 はいはい。

徳兵 悪いな。家の奴らにはすぐ戻るって言っといてくれ。

長蔵 はい。

徳兵 あとで何か奢るからさ。じゃあまたな。

長蔵 はい。

長蔵、下手に去る。徳兵衛、はつのもとへ。

徳兵 よう、おはつ。なにしてるんだ？

と、帽子を取ろうとする徳兵衛。はつ、それをとめて

はつ ああ、そのままかぶってて。

徳兵 え？ なんて？

はつ まだお客さんと一緒だからさ。だから、これはこう。

はつ、帽子を徳兵衛にかぶせる。

徳兵 わかったわかった。今日は店じゃないのか？

はつ なんか田舎のお客さんらしくてさ。せっかくの遠出だから一緒に観音様を巡って
ただけど、休憩がてらちよっと飲んだら盛り上がっちゃって。

徳兵 そのままこんなところで飲んでるってわけだ。

はつ そうなのよ。ホント疲れちゃう。

徳兵 お疲れ様。

はつ そんなことよりさ、このごろ全然連絡くれないじゃない？

徳兵 え？

はつ いや、ね、アタシだってもう大人だからさ、徳様が忙しいのだってわかってるわ
よ？ けど、でもやっぱり心配だし……

徳兵 悪かったよ。

はっ　なんか聞いた話によれば、故郷に帰ったとか聞いたけどそれはさすがにホントじやなさそうだし……徳様はなんにも思わないかもしれないけど、そういうのって結構辛いし……

徳兵　だから、悪かったって。でも、事情を言ったら、おはつまで苦しむかなと思って。だから言わなかったんだよ。

はっ　そんなの気にしなくていいのに。

徳兵　でも、最近、本当に厄介事が続いててさ。正直金集めるのに必死で、京都の実家にも帰ったよ。

はっ　そうなの？

徳兵　もうホントに忙しすぎて死ぬかと思った。

はっ　ちよっとでも話してくればよかったのに。なんて言ってくれなかったの？

徳兵　別に隠してたわけじゃないけど、言ってもどうしようもないから……

はっ　でも、言わなきゃわかんないでしょ？

徳兵　うん。

はっ　ちゃんと教えて。

徳兵　わかったよ。でも、もうだいたいのはどうにかなったんだ。

はっ　そうなの？

徳兵　うん。前にも言ったけど、うちの旦那様はさ、実の叔父さんだろ？　だから、甥の俺に親切にしてくれるし仕事の面倒も見てくれる。

はっ　うん。

徳兵　だから俺も、叔父さんのために精一杯仕事頑張ってたんだよ。でも、それを見て叔父さん、奥さんの姪っ子と俺を結婚させようとしてきて。

はっ　え！　〇×したの！？

徳兵　してないよ！　俺にはちゃんとおはつがいるし(照)

はっ　照れてる(笑)

徳兵　うるさいなあ(照)　で、だから相手にしてなかったんだけど。でも、叔父さん、知らないうちに俺の母親と内緒で結婚の相談してて。母親は金もらって帰っちゃやし。

はっ　だから実家に？

徳兵　そうそう。さすがに俺も納得できなくて、叔父さんに文句言ったんだよ。いくら世話になってるって言っても、強引すぎるって。

はっ　うん。

徳兵　そしたら、叔父さんもさすがに怒っちゃって、『お前が結婚を嫌がるのは天満屋のはつって女に惚れてるからだろ！　散々世話してやっというて！　結婚が嫌ならお前の家にやった金を弁償しろ！　そしてすぐ大阪から出て行け。二度と戻ってくるな！』って言われて。俺も意地になって『わかった！』なんて言っちゃやし。

はつ　なんで怒らせちゃうかなあ。

徳兵　しょうがないだろ。で、とりあえず実家に帰って、母親に金を返して貰いに行っただけ、もう全然話聞いてくれなくて。『絶対お金は返しませんー!』って離さないの。しょうがないから、町の人みんなに頭下げて、みんなに説得してもらって、ようやく返してもらって。

はつ　よかった。

徳兵　もうホントに恥ずかしかったよ。

はつ　で、お金は返したの？

徳兵　いや、まだ、

はつ　え、なんで？

徳兵　たしかに、金を返せば埒があくことはあくんだけど、でも、それでも大阪にはいられないし。そうしたらもうお前にも会えなくなるし……

徳兵衛、うなだれる。と、はつ、優しく寄り添う。

はつ　ホントにアタシのせいで……

徳兵　いや、お前のせいじゃ、

はつ　ううん……でも、嬉しいの。

徳兵　え？

はつ　ちゃんと、思ってくれてるんだなあって。

徳兵　はつ……

はつ　まあ、でも、たとえ大阪を追い出されてもさ、徳様はなににも悪いことをしたわけじゃないし。恥じることなんて何もないじゃない。

徳兵　……そうだな。

はつ　うん。でも……

徳兵　でも……？

はつ　もしももう一生徳様に逢えなくなるくらいなら、アタシ死んでもいいから。

徳兵　はつ……

はつ　二人で死んじゃってさ、そうすれば誰にも邪魔できないよ。ね？

徳兵　……ああ。

二人、優しく静かに涙を流す。

5・ワカメ

男5がやってくる。

第一幕の2

男5が水槽に増えるワカメを少しづつ少しづつ入れていく。ワカメは水を吸い、
どんどん膨張していく。水槽の中が黒く侵食されていく。

男2、7だんだん不安になっていく。

男5、去る。

はっ っていうかさ、まだそうなるって決まったわけじゃないし。返すなら早く行って
叔父さんの機嫌を取ってきたら？

徳兵 ああ、そうだな。そうなんだけど……

はっ なにかあるの？

徳兵 油屋の九平次知ってるだろう？

はっ うん。

徳兵 アイツが、『月末にどうしても金がある！』って泣いて頼んできたから、貸しちゃ
って……

はっ はあ、なにやってんのよ。

徳兵 いや、ごめんって。でも、アイツとは兄弟みたいな仲だしさ。俺が困ってること
だってアイツは知ってるから大丈夫だって。

はっ いつ返してもらうの？ 叔父さんとの約束は明日なんでしょ？

徳兵 いや、三日には返してもらはずだったんだけど、なんか連絡が来なくて。

はっ ええ？

徳兵 昨日も会いに行ってみただけど、留守で会えなくて。今朝尋ねようと思ってい
ただけど、得意先を回って仕事の始末をつけてるあいだにこんな時間になっ
ちゃって。

はっ 何してんのよ。

徳兵 いや、まあ、ちゃんと晩には行って埒をつけるよ。

はっ ホントに？ 大丈夫？

徳兵 大丈夫だよ。九平次だって悪い奴じゃないし。

はっ アタシちよっと苦手なんだよね。チャラチャラしてて。

徳兵 思ってるよりいいやつだよ。アイツは。

はっ 徳様がそう言うなら信じるけど……

徳兵 (遠くを見て)ん？ あ！ おはつ見てみる！

6・ピー(効果音)

男4、5、6やって来る。楽しそうに話しながら歩いている。手にはわけの分か

らない気持ち悪いものと、一升瓶。舞台に残っていた男2、7もその輪に混じる。

男5 うめえなあ。こんなにいいピー(効果音)はなかなか取れないよ。

男4 まじでうめえ

男2 酒もうめえぞ

男7 ピー(効果音)の方が美味しいよ

男6 久しぶりにいいピー(効果音)だけ、テンション上がってお母さんよんじやったよ

母親(男3) がやってくる。

母 うわ！ こりゃいいピー(効果音)だ！

男6 ピーの前に酒のめよ、おふくろ。

と男6は母親(男3)に口に含んでいた酒をぶっかける。他の人もそれに習ってかける。

母 もうお父さんも呼んじやう。

と父親(男1)やってくるなり、全員に酒をぶっかけられる。父親は嬉しそうに浴びる。

父 ピー(効果音)は日本海の宝じゃ。

皆 そうだ！そうだ！(酒をあびる)

父 頭も内蔵も、骨だって食うぞ。

皆 そうだ！そうだ！(酒を浴びる)

女 ピー(効果音)に捨てるよこ無し。

皆 そうだ！そうだ！(酒をあびる)

父 今日は生で食うってのはどうだい？！

皆 おおー

男4 あの、生でいけるんですか？

父 ばかやろう。生のピー(効果音)はうまいぞー。

皆 そうだ！そうだ！(酒をあびる)

父 味はそうだな……ピクルスに近い。

男4 え！？ 肉じゃあないんですか！？

父 何言ってるんだ。ピー(効果音)は山菜だよ。

男4 でも、なんか足みたいのついてんじゃん

父 擬態だよ擬態。

男4 でも、さっき骨まで食べられるって、

父 細かいことはいいから、ほら、

父、得体の知れないものを少しちぎり男に差し出す。臭い。

父、ちぎったそれを食べたかと思うとすぐ吐き出す。と全員食べる。そして、吐き出す。

父 ホントにうまいな、このピーピーピー(効果音)は！

母 もうピー(効果音)がピー(効果音)でピー(効果音)しちゃう！

皆 ピー—————(効果音)

全員爆笑。

男6 (尻を抑えて)あ、きたきた！

父 尻が燃えるぜ！

母 痛い！うまい！痛い！

全員爆笑。「痛い」「うまい」などいいながら次の場に必要の無いものはお腹を抱えながらはける。

7・マジック

男7、2が舞台にいる。そこへ男5が笑いながらやってくる。

男5 ハーハツハハハ！ ハーハツハハハ！

男7 見える。

男2 見える。

男7 見えるぞ。

男2 見えるぞ。

男7 はっきり見えるぞ。

男2 くっきり見えるぞ。

男5は男7、2の前に仁王立ち、殴ると見せかけて手から紙吹雪をまき散らす。

男5 ハーハツハハハ！ ハーハツハハハ！

男5、去る。男7、2はやりきれない表情。
と、男4が笑いながらやってくる。

男4 ハーハッハハハ！ ハーハッハハハ！
男7 見える。
男2 見える。
男7 見えるぞ。
男2 見えるぞ。
男7 はっきり見えるぞ。
男2 くっきり見えるぞ。

男5は男7、2の前に仁王立ち、殴ると見せかけて手から紙吹雪をまき散らす。

男4 ハーハッハハハ！ ハーハッハハハ！

男4、去る。男7、2はやりきれない表情。
と、男6が笑いながらやってくる。

男6 ハーハッハハハ！ ハーハッハハハ！
男7 見える。
男2 見える。
男7 見えるぞ。
男2 見えるぞ。
男7 はっきり見えるぞ。
男2 くっきり見えるぞ。

男6は男7、2の前に仁王立ち、殴るかと思いきや手からステッキが飛び出す。
男7、2驚く。男6、去る。

男7 すごい……
男2 すごい……
男7、2 すごいや……

と、男4、5、6が笑いながらやってくる。

男4、5、6 ハーハツハハハ！ ハーハツハハハ！

男7 見える。

男2 見える。

男7 見えるぞ。

男2 見えるぞ。

男7 はっきり見えるぞ

男2 くっきり見えるぞ。

男4、5、6は男7、2の前に仁王立ち、殴ると見せかけて手から大量の紙吹雪をまき散らす。紙吹雪は客席にまで届き、観客の頭や体にもかかる。

男4、5、6、去る。とても悲しい顔の男7、2。

と、男7、男5を呼び止める。

第一幕の3

徳兵 おい、九平次！

九平 ん？ お、徳兵衛。

徳兵 お、徳兵衛じゃないよ。お前、なにやってんだよ、俺には連絡もよこさないで遊んでないで、さ、貸した金返してくれ。

と、徳兵衛、手を出す。

九平 は？ なんのことだ、徳兵衛？

徳兵 いや、なんのことだ、じゃなくて。

と、徳兵衛、にじり寄る

九平 え、なにになに？ 意味わかんない。

徳兵 いや、お前ふざけんなよ？

九平 なに？ けんか？ (周りの男を指して)この人たちは町の役人たちだよ。今、伊勢講に行つて、その帰りなんだけど、酒も少し飲んでる。それでもいいの？

徳兵 喧嘩なんかしないよ。俺は先月の二十八日にお前に貸した金を返してもらいたいだけだ。

九平 ハハハ。

徳兵 何がおかしい。

九平 おかしいのはそっちだよ徳兵衛。

徳兵 はあ？

九平 お前との付き合いは長いが、お前から金を借りたことなんて一回もないよ、俺は。意味の分からない事を言うな。

徳兵 は？ 何言ってるんだお前。お前俺から金借りて、三日には返すっていったらろ！

九平 だから、そんなこと言っていないって。

徳兵 お、お前、ふざけるな！ あ、あの金がなきゃ俺は……！

と、徳兵衛、九平次に掴みかかろうとする。が、男達に止められる。

徳兵 クソ！ お前、俺を騙したのか！ あの金がなきゃ俺がどうなるかお前わかって

るだろ！ 俺とお前は親友だって言ってるだろ！

九平 だから、金なんて借りてないって言ってるだろ。わからないやつだなあ。

徳兵 嘘だ！ 確かに貸した！ そうだ……！ 証文もある。俺はいらぬと言ったがお前が書かせた証文が！

徳兵衛、懐から折りたたまれた紙を取り出す。

徳兵 これだ！ これにはお前の判も押してある。もう嘘は付けないぞ！

九平 見せて。

九平次、徳兵衛から紙を取り、広げる。ほかの男たちも紙を覗き込む。

徳兵 役人の皆さんもその判には見覚えがあるだろう。どうだ九平次。

九平 ダメだなあ。

徳兵 え？

九平 俺たちは親友なんだろ？ 親友に嘘はダメだよ、徳兵衛。

徳兵 俺は嘘なんか……

九平 確かにこの判は俺の判だ。

徳兵 そうだろ！

九平 だけどな、徳兵衛。俺は先月の二十五日に鼻紙袋を落として、一緒に印判もなくしてるんだよ。

徳兵 ！？

九平 いや、いろんなところに張り紙もして探したんだけど、見つからなくてさ。しょうがないから今月から、このお役人さんたちにも届けを出して、印判を変えたんだよ。

徳兵 ……

九平 どうしたら二十五日に落とした判子を二十八日に押せるんだよ。なあ、徳兵衛？
徳兵 おまえ……！

九平 お前が俺の判を拾って、そして偽の証文を作り、自分で判を押ししたとしか考えられないんだよ！

徳兵 クソ野郎！！

徳兵衛、また九平次に掴みかかる。が、男達に止められる。それでも暴れる徳兵衛。

徳兵 クソ！ 騙したなこの野郎！ お前とは兄弟だと……親友だと思ったのに……！！

徳兵衛と男たちの取っ組み合いが始める。はつは、アタフタして、止めにも入れず

はつ 誰か！ 誰か！ 助けて！ 徳様が！ 徳様が！

客や籠持ち達気づいてはつの方へ。

はつ ああ、助けて！ 徳様が！ 徳様が！

と、客に頼むが、

客 ああ、これはどうということなんだ。逃げるぞ。

と、無理矢理にはつを籠に押し込む。

はつ いや、ちょっと待って。違う！

はつ、客とともに籠に乗り、奥へ運ばれていってしまう。

九平次たちは徳兵衛を殴ったり蹴ったりして押し倒し、頭をつかみ水槽まで引きずっていき、頭を水の中に突っ込む。

7・目隠しビンタ

男4、5、6が、男7を羽交い締めにして、目隠しをする。

男6、男7にビンタする。

男7 ええええええええ！ なんて！ なんて！

男6 めっちゃ怖いだろ。

男7 怖いよ！

男6 怖いだろ！

男7 怖いよ！

男4 俺だったらビビらねえし

男7 言ったな

男4、自分の目を隠す。男6、7は押さえつける。

男5、フェイントをかけたたりする。

男4 ……………え、ちよっ！ 怖い怖い！

男5 えへへ

男4 え、早くしろ！

男5、「おい！おい！」というかけ声とともに連続でビンタをする。

男4 痛い！

男5 えへへ

男7 今度俺。今度俺。

男6 え、じゃんけんしよ。

男7 わかった。いいよ。

じゃんけんする四人。と男1があらわれる。

男1 てめえら、生半可な気持ちでビンタをしてるんじゃあねえ！

皆 部長！！

男1 ならべ！

皆 はい！

と、全員集合。

男1 遊びじゃあねえ、ビンタはこうするんだ！

と、全員に流れるようにビンタをする。

皆 押忍！

男一 はい、フォアー〇〇回！

皆 押忍！

と、二人一組になってリズムにあわせてビンタをしていく。

男一 フォア！フォアフォア、バック！

皆 押忍！

男一 バックバック、

皆 押忍

男一 フォア

皆 おい！おい！おい！おい！

男一 バックフォア、交代！

皆 おい！おい！おい！おい！

以下、気の済むまでビンタを続ける。

男一 はい！解散！

第一幕の4

九平次たちはその場に徳兵衛を置き去りにして笑いながら下手に去っていく。
しばらく間。

徳兵衛、起き上がりその場に座り、

徳兵衛 クソ！ 九平次の野郎！ あんなに仲良くしてやったのに…… クソ！ クソ！

床を殴りながら叫ぶ徳兵衛。

徳兵衛 クソ！ クソ……

崩れ落ちる徳兵衛。しばらくして徳兵衛起き上がり、落ちた帽子を拾う。

8・中高生が携帯の待ち受けにしていそうなデコレーションされた恋愛に関する詩のよう

くれるって言ったじゃーん！

露出狂 お母さんは助けてくれないよ。

男の子 え？

オオカミ お母さんは助けてくれない。

男の子 そうなの？

トラ そうだよ。

男の子 でも、助けてくれるって言ったよ。

モンスター おっん；ほんくぞく；にく；

間。

男の子 ……………え？

露出狂 お母さんは助けてくれないよ。

オオカミ (トラと一緒に)お母さんは助けてくれない。

トラ (オオカミと一緒に)お母さんは助けてくれない。

トラたち、男の子に迫っていく。

皆 お母さんは助けてくれない。助けてくれないよ。

男の子 そんなことないよ！

皆 お母さんは助けてくれない。助けてくれないよ。

男の子 うわー！

トラたち、男の子を覆い隠す。男の子飛び出す。男の子、男になっている。男になった男の子はトラたちをなぎ倒していく。男の子、全員倒し、一人。

男 これが力……

トラ そう。それが力。

男 力……

オオカミ お前は強い。

男 俺は強い……

露出狂 お母さんの助けはいらさない。

男 お母さんの助けはいらさない……

モンスター うい hlvb りんぐ…sr……

男 (モンスターの言葉を遮り)お母さんの助けはいらさない！
皆 おお！

男、トラ、オオカミ、露出狂、喜び盛り上がりながら去る。モンスター立ち上がり、頭を外す。そこには母の姿。母、男たちの去ったほうを見て、

母 ヒロシ……

母、泣く。

10・タバコ

男1、2、3、4、5、6がやってくる。泣いている男7を気遣うようにタバコを渡し、半円に並ぶ。皆、無言でタバコを吸い始める。紫煙が立ち上る。静かな間。張り詰めた空気。

男1 (なに男7を励ますような、格言のようなことを言う)

静かな間。

男2 (なにかくだらないことを言う)

静かな間。

男3 (なにかくだらないことを言う)

静かな間。

男4 (なにかくだらないことを言う)

静かな間。

男6 (なにかくだらないことを言う)

静かな間。

男7 (なにかくだらないことを言う)

静かな間。

男5 (なにかくだらないことを言う)

静かな間。と男7再び泣きだす。皆、男7を気遣う。男1、5、男7に優しく寄り添いながら、3人去る。

第二幕の1

舞台には机と椅子が置かれている。

はつがほかの女郎たちと座っている。一緒にはいるが誰とも話さず、ひとり遠くを見て物思いにふけっている。

女1 ねえ、おはつ、徳兵衛様なんか親友騙してボコボコにされたって聞いたんだけど
そうなの？

はつ、答えない。

女2 いや、なんか聞いた話によると踏まれて死んじゃったらしいよ。

女3 え、アタシは言い訳してるところを捕まっちゃって聞いたけど……

女2 え、そうなの？

女1 死んでないといいけどねえ。

女3 でも、そうとうやられてたらしいよ。

女2 死ぬくらいでしょ？

女1 だから、まだ死んだかはわからないでしょ。

女2 でもさあ……

はつ ああ、もうやめてよ！ 聞きたくない！

女3 ご、ごめん……

間。

と、ボロボロの徳兵衛が下手からやって来る。徳兵衛に気づくはつ。はつ、様子を見て、

はつ ちょっと夜風に当たってくる。

女1 え、はつ？

と、立ち、徳兵衛のもとに駆け寄る。

はつ 大丈夫？ なんかいりいろ噂されてたけど。でも、生きてて良かった。

徳兵 お前も聞いてた通り、すっかり九平次のやつに騙されたよ。本当のことを言っても誰も信じてくれない。

はつ そんな……

徳兵 もうどうしようもないんだ。俺は……

と、二人泣く。

前と並行して上手から天満屋の主人がやって来て、

主人 あれ？ おはつは？

女3 ああ、おはつちゃんなら夜風に当たると外に。

主人 えー、なんだよ、しょうがないな。

店の入口あたりまで行って、はつを呼ぶ。

主人 おーい、おはつ。今大変なんだから外なんか出歩くなよ。早く戻ってこい。

はつ は、はい。ああもう、ここじゃどうしようもない。アタシがなんとかするから。

ー・修行

と、男2は舞台中央であぐらをかいて座る。それに習って男4、6、7もあぐらをかいて座る。

男1は、舞台上手奥でずっとネギを切っている。

男達は集中力がみなぎっている。禅の修行のようだ。

少し舞台がネギ臭くなる。

女(男3)が傍へよってくる。女は手に数珠を持っている。

女は男達を少し観察してから、男6に近寄る。手に持っていた数珠で男6の顔にフェイスマッサージを始める。

女 どうですかぁー？ 気持ちいいですかぁー？

男6は微動だにしない。

女 気持ちよくないですかぁー？

女は数珠を首筋に移してゆき、フェイスマッサージからリンパマッサージに変化してゆく。

女 ほら、リンパですよー。

男6は微動だにしない。ように見えるが、本当は少し感じている。

女 滞ってますよー。

女のマッサージは男6の身体をゆっくりとゆっくりと下降してゆく。それでも、男6は我慢している。興奮は高まっていく。舞台はどんどんネギ臭くなっていく。女のマッサージが股間にきたところで男は耐えられなくなり、声が漏れる。

男6 あっ……。

男1 喝!!!!!!!!!!!!

男6は絶望している。他の男達は彼を軽蔑の目で見る。
女は哀れみの目を男におけ今度は男2に近寄る。男1はニラを取り出し再び切りはじめ。

女 ほら、リンパですよ。

男2 あっ……。

男1 喝!!!!!!!!!!!!

男2は絶望している。男1はニンニクを切りはじめ。舞台に匂いが漂う。
女は男4に近づく。

女 ほら、(顔を触る)

男4 あっ……。

男1 喝!!!!!!!!!!!!

男4絶望。男1はピーを取り出し切ろうとする。
女は男7を見る。

男7 あっ……。

男― 喝!!!!!!

男達はうなだれる。女は哀れみの目を向ける。男―はピーを切る事が出来ずに苛立つ。男2、4、6、7は申し訳なさそうにネギを片付けながらコンコン去る。

舞台はとてもネギ臭くなっている。

12・後始末

舞台上には男―と女がいる。無言の間。

そこへ、申し訳なさそうに服を着替えた男2、4、6、7が戻ってくる。男2は上着を羽織っている。各々手には消臭剤。無言で消臭剤を舞台に撒く。気まずい会釈なんかをして、位置に着く。

第二幕の2

はつ、服の中に徳兵衛を隠し、店に戻る。椅子に座ると、皆に見えないよう服から徳兵衛を出し、机の下に隠す。そして、何食わぬ顔でタバコを吸い始める。と、下手から九平次がやって来る。

九平 よお、久しぶりだね。

主人 ああ、これは九平次様ようこそおいで。

九平 (女郎たちに)あれ? どうしたどうした。みんな寂しそうな顔しちゃって。お客いないの? 俺が客になってやろうか?

主人 はあ……

九平 なんだよ、嫌なの?

主人 いえいえ! そんなことは! ほら、早く誰か酒を!

九平 いや、酒はいい。もう飲んできた。

と、九平次、はつの方を向き、

九平 ところでさ、おはつ。お前に面白い話があるんだ。

はつ ……なんですか?

九平 お前が一番のお客様の平野屋の徳兵衛いるだろ? あいつがさあ、

主人 あ、九平次様、その話は……

九平 なに!

主人 あ、いや、何も……あ、じゃあ私ちょっと、お吸い物でも取ってきますね。

と、逃げるように主人、女郎1、2、3去る。

九平 でき、その徳兵衛が俺の落とした印判拾って、偽の証文作って、金を騙し取ろうとしてきたんだよ。怖いよなあ。

はつ ……

九平 まあ、結局はへまこいて、お役人どもにボコボコにされてたけど(笑)

九平次、笑う。

九平 ついこの間まで、『俺とお前は親友だ』なんて言ってたのに、ホント、シヨックだよ。面目面言なんて言っておきながら、自分は親友から金騙そうって言うんだから。ホント、頭でもおかしくなったんじゃない(笑)

はつ ……

九平 でき、またここへも顔を出すかもしれないけど、あいつの言うことはぜーんぶ嘘だから。頭のおかしい奴にみんなが騙されないようにって忠告しに来たんだよ、俺。優しいでしょ(笑)

はつ ……

九平 ノリ悪いなあ(笑) まあ、でも、あんなやつすぐに処刑されるだろうから、こんなとこ来てる暇ないだろうけどね(笑)

徳兵衛、怒りに震え、机の下から飛び出そうとする。しかし、はつはそれを足の先で押し鎮める。と、はつ、姿の見えない徳兵衛に問いかけるように、

はつ ……徳様とはもうどれくらいの仲だったけ？

九平 は？

はつ 徳様とはもうお互い隠すところもないくらい仲だよな？

九平 はつ？

はつ なんてこんなことになっちゃたんだろうね……でも、しょうがないかな。バカみたいに男気見せて、それで騙されて……ホントに徳様の悪い癖だよ。まあ、そこに惚れたんだだけさ。

九平 お前何言ってるの？

はつ ……これからどうしよっか？ もう証拠だってないし……どうにもできないよ？

と、はつ、皆に気づかれぬよう足先で徳兵衛に問いかける。

徳兵衛は泣くのをこらえながらその足を持ち、足首を喉笛になてつける。

13・しじみ

しじみが開いていく映像が流れる。男達それを、ぼーっとみる。意外に長い。しじみがパカッと開いたら男2、5、7去る。

14・おばあちゃん

はつが居た場所にはおばあちゃん(男4)がいる。九平次の居た場所には
介護士(男3)。
徳兵衛の居た場所には誰もいない。

おば みちこさーん。みちこさんはいるかい？

介護 はいはい。目の前にいますよ。なんですか？

おば みちこさん、朝ごはんはまだかいね？

介護 朝ごはんはついさっき食べましたよ。

おば あれ？ そうだったけね？

介護 そうですよ。あと、アタシ、みちこじゃなくてミサですからね。「み」しか合って
ませんからね？

おば あー、ごめんごめん。

介護 いえいえ。じゃあまた何かあったら呼んでくださいね。

おば あ、

介護 ん？

おば 朝ごはんはまだかいね？

介護 だから朝ごはんはさっき食べましたよ。わかりました？

おば あー、そうだったそうだった。ごめんね、次郎。

介護 ミサです。誰ですか次郎って完璧、男じゃないですか。

おばあちゃん何もいない地面の方に手を伸ばす。

おば おー、次郎。お手。

介護 え、犬！？ 次郎って犬！？

おば おー、次郎よしよし。

介護 しかも、結構でっかい。

おば 次郎はね、いつも仕事から帰ってくるとこうやって犬みたいになってねえ。

介護 え!?

おば もっとしてくれ、もっとしてくれって、聞かなかったよ。仕事場じゃあんなに威張り散らしてたくせにね。

介護 え、次郎って旦那さん!?

おば そ、そこはそんなに広がらないよっていうのが次郎の口癖だったっけ。

介護 佐藤さん!?

おば アタシもそんな次郎に興奮して目一杯広げたりしてねえ。

介護 え、いいの!?

おば あの日もそうだったねえ……

おばあちゃんの回想。おばあちゃんは椅子の下に見えない旦那を見る。

おば おかえりなさい。今日は早かったのね。ん? ああ、そうね。もう明日だものね。

仕事なんかしている場合じゃないか。(おばあちゃんいやらしいことをされて) もう、ちよつとやめてくださいな。そういうのはまた後で(笑) ほら、汗かいたでしよう? お風呂湧いてますから、先に入ってらっしゃい。ご飯ももうすぐ炊けますから。ホントは今日はあなたの好きな栗ご飯にしてあげたかったんだけどねえ。やっぱり物資が厳しいみたいで。お米ももうちよつとしかもらえなくて。栗なんて高級品でしょ? でも、頑張って作ったのよ? お魚だってあるわ。ねえ、向こうに行ったらお腹いっぱい食べられるのかしらね? ああ、ごめんなさい。石鹼が切れてたわ。(タンスを探して)あれ? 確かここに……え? いないって、そんなわけにはいかないでしょ。お国のために戦うんだから体くらい清めないで。(また探して)あれ、どこにやったのかしら? あれ? あれ? (振り返って)え、もう行くの? もうそんな時間? あら、アタシったらなんの準備もしないで。どうしましょ。そういうえばアナタ昨日は何もませんでしたね? 帰ってきてからのお楽しみ? もう、いやらしい(笑) じゃあ絶対帰ってきてくださいよ。まあ、日本軍は連勝らしいし大丈夫でしょうけど。うん。わかってるわよ。ちゃんと待ってますから。じゃあ、いってらっしゃいね。うん。

おばあちゃん、旦那さんを見送る。

おば あなたー! いってらっしゃーい! 天皇陛下バンザーイ! 大日本帝国バンザーイ! お国のために頑張るのよー! 天皇陛下バンザーイ! 大日本帝国バンザーイ!

だんだんと日は暮れていく。

介護 佐藤さん？ 大丈夫ですか？ 佐藤さん？

おば あ、ジェシカ。

介護 ジェシカじゃないよ！ いきなり外人かよ！

おば 朝ごはんはまだかねえ。

介護 今、持ってきてますから、ちょっと待っててくださいね。

介護士、朝ごはんを取りに行く。おばあちゃんゆっくり空を見上げる。

15・メレンゲ2

とそこへけたたましい音楽とともに男達がボールを抱えて乱入してくる。ボールの中にはたっぷりのメレンゲ。ボールにはゴムがついており舞台奥へつながっている。アナウンス（男）が入る。

アナ よーい、

男たち、構える。

アナ はじめ！

男たち、一斉にボールの中のメレンゲを泡立て器でかき混ぜ始める。必死にメレンゲをかき混ぜる男たち。油断をするとゴムのせいでボールが引き戻されボールを被ってしまう。しばらくかき混ぜたところで音楽が止まり、出番以外の役者は去る。

第二幕の3

はつ ……これからどうしよっか？ もう証拠だつてないし……どうにもできないよ？

と、はつ、皆に気づかれぬよう足先で徳兵衛に問いかける。

徳兵衛は泣くのをこらえながらその足を持ち、足首を喉笛になてつける。

はつ (泣きながら) そっか……そうだよね……

九平 え、何、泣いてんの？

はつ ……そうするしかないよね

九平 は？

はっ (九平次のほうをむいて)もう生きてたってどうしようもないもんね……

九平 ちよ、なんだよ！ マジでキモい！ 何泣いてんの？

はっ ねえ、九平次様、徳様は死ぬかな？

九平 はあ？ 徳兵衛が死ぬわけないでしょ(笑)さっきのは冗談！

はっ ……(少し微笑みながら)そっか。

九平 まあ、でも、ホントにそうだったらお前は俺がちゃんと可愛がってやるよ？

ていうか、実はお前も俺に惚れてるんでしょ？

はっ そうね。そうなければいいなあ。

九平 でしょ？(笑)

はっ だって、そうなければすぐにでもアナタを殺せるもの。

16・メレンゲ3

とそこへ男達がボールを抱えて乱入してくる。ボールの中にはたっぷりのメレンゲ。アナウンス(男一)が入る。

アナ よーい、はじめ！

男たち、一斉にボールの中のメレンゲをかき混ぜ始める。必死にメレンゲをかき混ぜる男たち。またしばらくして音楽が止まり、出番以外の役者は去る。

第二幕の4

九平 まあ、でも、ホントにそうだったらお前は俺がちゃんと可愛がってやるよ

はっ そうね。そうなければいいなあ。

九平 でしょ？(笑)

はっ だって、そうなければすぐにでもアナタを殺せるもの。

九平 は？

はっ (九平次に微笑む)

九平 ……なんだよ？

はっ ねえ、徳様？

九平 おい。

はっ ねえ、徳様、ちゃんと聞いている？

はっ、足で徳兵衛をつく。

17・メレンゲ4

とそこへ男達がボールを抱えて乱入してくる。ボールの中にはたっぷりのメレンゲ。アナウンス(男1)が入る。

アナ はじめ!

男たち、一斉にボールの中のメレンゲをかき混ぜ始める。必死にメレンゲをかき混ぜる男たち。またしばらくして音楽が止まり、出番以外の役者は去る。

第二幕の5

九平 おい!

はっ うるさい! このろくでなし! つまらないこと言うなら早く帰って!

九平次、気圧される。

18・NO MORE WAR

と、アーミーなオカマ(男1、3、4、6)たちが騎馬になって乱入してくる。彼女たちは戦争反対を訴えている。

オカマ NO MORE WARI! NO MORE WARI!

オカマたちの熱い抗議は続く。

男5 おいおい!なんんだ!

男2 うるさい!このろくでなし!

男5 や、おい!なんなんだよ!

男2 つまらないこと言うなら早く帰って!

男5、気圧される。オカマの騎馬は嵐のように去って行く

第二幕の6

はつ　ねえ、徳様？　徳様が死ぬっていうならアタシも死ぬよ？　ちゃんとアタシも死ぬから……ねえ……

はつ、また徳兵衛を足で突く。徳兵衛もその足を抱き、二人声を押し殺して泣く。

九平　……なんだよムカつくな！　いいよ、帰るよ。せっかくだいい気分だったのに台無しだよ。金だっけいくらでもあるのに。あーあ、こんな頭のおかしい女郎のいるとこやめて、他の店行くわ。

九平次、去る。

主人やってくる。

主人　ふう、やっと帰ってくれたよ。

はつ、泣いている。

主人　はつ……ああ、今日はもう終いだ。みんなもう寝なさい。

主人、机や椅子を片付け出す。

主人　はつも今日はもう休みなさい。

はつ、立ち上がる。

はつ　……旦那様。

主人　ん？　どうした？

はつ　……今までありがとうね。

主人　え？

はつ、去る。

主人　……なんなんだよ今日は。

主人、すぐに片付けに戻る。片付けが終わると、主人も去る。
舞台に徳兵衛だけが残る。

男7、けんけんばのような遊びを一人で始める。

男が遊んでいると、スカートを履いた違う男が一人やってくる。スカートの中には男の生々しい脚が見えている。遊んでいた男7、やってきた男に気づき遊ぶのをやめる。二人、スカートの裾を持ち、お姫様のような挨拶。今度は二人であんたがたどこさのような遊びをはじめ。

またスカートを履いた男がやってくる。二人、それに気づき遊びをやめる。またお姫様のような挨拶。三人はバレエの真似事をはじめ。

スカートを履いた男たち、楽しそうにじゃれあう。スカートがゆれ、男たちの脚が見える。足はひとりひとり違う。ゴツゴツしている足。滑らかそうな足。毛の多い足。6本の脚が舞台の上で絡まるように動いている。そうして、だんだんと動きは洗練され滑らかになっていく。6本の足の動きがそろいはじめる。男がやってくる。三人はすぐに動くのをやめる。

音楽が鳴り始める。男が一人やってくる。男は客席の方を向き、歯磨きを始める。口の中が泡立つ。すると、また違う男がやってくる。先にいた男、気づきあとから来た男を見つめる。二人見つめ合う。後から来た男も歯磨きを始める。二人、見つめ合い歯磨きをする。音楽とともに舞台はだんだんと官能的になっていく。後から来た男、去る。そして、すぐに戻ってくる。手には水の入ったペットボトルとボール。後から来た男、水で口をゆすぎボールに吐き出す。水を先にいた男に差し出し、先にいた男も水で口をゆすぐ。後から来た男、水とボールと歯ブラシを持って、去る。先にいた男、その場に寝る。

薄暗い舞台。水槽だけが白く光っている。水槽の近くで下女が一人眠っている。

上手より白装束のはつが出てくる。すぐに立ち止まりあたりを確認するはつ。

今度は下手より徳兵衛出てくる。声を殺し、手招きしてはつを呼び。

はつ、それに気づき、うなづく。が、下女がいて通れない。

二人考える。はつがなにか思いつく。はつは一旦、上手に入ると、すぐに扇と箒を手にして戻ってくる。二つを組み合わせ、水槽の明かりを扇ぎ消そうとする。手もカラダも目一杯伸ばして、必死に扇ぐ。水槽の明かり、消える。と、

同時にバランスを崩してはつが転ぶ。下女、「うーん」と寝返りを打つ。下女が起きないことを確認して、二人は手探りでお互いを探し合う。
と、奥から主人がやって来る。

主人 今の音はなんだ。明かりも消えてるし。早くつけなさい。

主人去る。

下女、眠そうに目をこすり、ダルそうに起き上がってダラダラと明かりをつけようとす。が、暗くて水槽がどこかわからず手探りで探す。

二人は、下女に見つからないように逃げ回り、なんとか手を取り合い、下手まで行く。下女、手探りのまま、去る。安堵し、見つめ合って笑う二人、去る。

21・傘回し

誰もいない舞台。そこへ、可愛らしい傘を回しながら男4が来る。傘の先には細い糸で人形がつかれている。人形は観音像に見えなくもない。傘を回しながら男は舞台を一周し、去る。

22・犬と星

電球が落ち着いたか、落ち着かないかの頃合いで男6がひとりいる。

男6 あの、僕、犬を飼ってたんですよ。まあ、僕が飼ってたっていうよりか家族で飼ってたって感じなんですけど。ついこの間死んじゃって。でも、特になにか起こったわけでもなく老衰なんですけど。一々歳まで生きてすごい長生きだったんですけど。僕が6歳の頃に親戚の家で生まれた子犬をわけてもらったんですけど。名前はピーちゃんって言って、なんでかって言うと、ホントはもっとかっこいい名前にするはずだったんですけど、なんか生まれつき器官が狭かったらしくて生まれたときから息するとたまにピーピー言うんですよ。それ聞いたお父さんがピーちゃんって呼んだのが定着しちゃって。だから、なんか鳥みたいな名前になっちゃったんですね。ピーちゃん。しかもセントバーナードなのに。全然似合っていないけどなんか定着しちゃって。それからずっと一緒に暮らしてたんですよ。健康なことしか取り柄のない犬で。毎日欠かさず散歩もして。夜、ご飯食べ終わってから、散歩に行くのが日課で。ピーちゃんと夜空を見ながら歩くんです。危ないから懐中電灯つけて。家は田舎の方なんで澄んだ星空見ながら、田んぼ道を歩いて。星が好きなんです僕。だから夜に歩くのもあったんですけど。懐中電灯で照らして、あれが夏の大三

角形だよーとかピーちゃんに話しかけて。ピーちゃんもわかってるんだかわかってないんだかわかんないけどワンって鳴いてくれて。でも、大学に行くために上京しちゃって夜の散歩もなくなって、やっぱりこっちじゃ星も見えないし。で、ピーちゃんも危ないって連絡が来て久しぶりに実家に戻ったんですよ。でも、その時にはもうピーちゃんは冷たくなって。朝、家の裏にある大きな木の下をほって埋めてあげたんです。で、その日の夜に久しぶりに散歩してみたんですよ。ひとりです。したらやっぱり星はキレイで。こうやって懐中電灯で照らしながら歩いて。

男の服から懐中電灯が出てくる。

男6　ねえ、ピーちゃん見て、あれが冬の大三角だよ。あそこにはピーちゃんみたいに
おっきな犬のおおいぬ座って星座があつてその中の一番明るい星がシリウスって言
うんだよ。ホントはピーちゃんじゃなくてシリウスって名前にしたかったんだけど
ピーちゃんにはカッコよすぎたね。ピーちゃんはさ、ピーちゃんがいいよ。ピーち
ゃんが一番似合ってるよ。

男の服からもう一本懐中電灯が出てくる。男、二本の懐中電灯で交互に壁を照
らす。男の照らす光は様々なところへ散らばり満天の星空のように輝く。そし
て、最後に電球をゆらして去る。その電球は人魂のように見える。

第四幕

鐘の音。

徳兵衛とはつ、歩いている。

はつ　よかったね。

徳兵　ん？

はつ　見つからなくて。

徳兵　ホントだよ。ヒヤヒヤだった(笑)

はつ　追ってくるかな？

徳兵　誰も気づいてないよ。

はつ　そうだね。

二人、歩く。

はつ　あ、見て。川に星が映ってる。

徳兵 ホントだ。雲がないからかな。
はつ きれい。

徳兵 天の川みたいだ。

はつ ロマンチックだね(笑)

徳兵 うるさいな(照)

二人、歩く。はつ、立ち止まる。

はつ ……

徳兵 ?

はつ ……

徳兵 はつ?

はつ ……なんでもない

徳兵 ……うん。

二人、歩く。

はつ 今日ね、お客さんと観音様を巡ってただけどね。

徳兵 うん。

はつ 神社で厄年だって言われた。

徳兵 へー。

はつ 女の人は一〇歳で、男の人はNの歳なんだって。初めての厄年。

徳兵 へー。じゃあ俺もだ。

はつ 確かに。ついてないね、アタシたち。

徳兵 ホントにな。

はつ でも、嬉しいよ。徳様と一緒になら。

徳兵 ……

はつ 何か言っつてよ。

徳兵 (笑)

はつ もう(笑)

二人、歩く。

はつ え、なに?

徳兵 人魂だ。

はつ 人魂?

徳兵 俺たちだけじゃないんだ……
はっ うん……
徳兵 俺たちもあなるのかな？
はっ どうなんだろ。……でも、嬉しいよ。徳様と一緒になら。
徳兵 ……ああ。

二人、歩く。

はっ ねえ。
徳兵 ん？
はっ 今度旅行行こうよ。
徳兵 え？
はっ 旅行。
徳兵 ……そうだな。行くか。
はっ うん。
徳兵 どこがいい？
はっ うーん、江戸とか？
徳兵 江戸？ 江戸なんて何も無いよ。
はっ そうなの？
徳兵 そうそう。でかい城があるだけ。
はっ 見たことあるの？
徳兵 ないけど。
はっ ないんじゃない。
徳兵 ないけど、そうだよ。
はっ そっか。じゃあどこにしよう？
徳兵 縁起がいいところがいいな。神社とか巡って。
はっ さんざん巡ったよ(笑)
徳兵 そうだった(笑)
はっ でも、どこか遠くがいいなあ……
徳兵 ここら辺でいいかな？
はっ あ、うん。

二人、水槽の前で立ち止まる。徳兵衛、ベルトを外す。

はっ ほかになかったの？
徳兵 急いでたから。

徳兵衛、自分とはつの腕をベルトで結ぶ。

はつ 雰囲気ないね(笑)

徳兵 ダメかな？

はつ、懐から赤いひもを取り出す。

はつ これをこう。

はつ、自分と徳兵衛の小指に糸を結ぶ。

はつ これでよし。

徳兵 うん。じゃあ……

はつ、横たわり、徳兵衛、その上にまたがる。徳兵衛、ポケットから刃物を取り出し、振りかぶる。しかし、なかなか振り下ろせない。徳兵衛、振りかぶったまま泣き出す。徳兵衛、泣き叫び、はつに刃を振り下ろす。しかし、外れる。もう一度振りかぶり、また声を上げながら振り下ろす。また外れる。徳兵衛、泣きじゃくる。と、はつ、徳兵衛の手を優しく握る。はつ、そのまま刃を自分の首に持っていく。と、灯体が落ちる。徳兵衛、のけぞる。溢れ出す血。徳兵衛、驚くが何かを決心したようにゆっくりとはつから刃を抜く。そして、自分の首に当て、目を閉じ、搔っ切る。真っ赤な血が吹き出す。灯体が落ちる。徳兵衛、はつの上に覆いかぶさるように倒れる。

暗転。

23・あやとり

優しい明かり。客席も舞台も同じ明かり。音はない。

男7が座っている。一人であやとりをしている。

男1がやってくる。

男1 あれ、何してんの？

男7 あやとり。

男1 あやとり？ 懐かしいね。

男7 小学生以来かな。
男1 なんてあやとり？
男7 いや、なんかこのひもが朝起きたら小指に結んであって。
男1 え、キモイ。
男7 そうか？
男1 そうだろ。それでなんであやとり？
男7 うーん、なんとなく？
男1 なにそれ。
男7 いや、それよりさ、このあとが全然思い出せないんだよ。わかる？
男1 え？ いやー、わかんないな。
男7 なんだよー。

男3がやってくる。

男3 おつかれー。
男7 あ、おつかれー。
男1 おつかれー。
男3 なにしてんの？
男7 あやとり。
男3 あやとり？ なんて？
男7 なんとなく。
男3 え？
男1 なんかこのひもが朝起きたら小指に結んであったんだって。
男3 え、なにそれストーカー！？
男7 違うよ。
男3 えー、でもわかんないじゃん。
男1 やっぱりキモいよ。

男4がやってくる。

男4 おつかれー。
男1 おつかれー。
男7 おつかれー。
男3 おつかれー。
男4 なにしてんの？
男3 なんかストーカー出たって。

男4 え、マジ！ 誰の！？
男7 違うよ。
男4 え？
男3 でも、そんなの絶対ストーカーだよ。
男1 俺もそう思う。
男4 え、なにに？
男1 なんか、このひもが朝起きたらコイツの小指に結んであったんだって。
男4 え、こわ！ なに心霊現象？
男3 ストーカーだって。
男7 ストーカーじゃねえよ。

男6、やってくる。

男6 おつかれー。
男1 あ、おつかれー。
男7 おつかれー。
男3 おつかれー。
男4 おつかれー。
男6 集まって何してんの？
男4 幽霊出たんだって！
男6 幽霊？
男3 ちげえよ、ストーカーだよ。
男7 どっちもちげえよ。
男6 は？
男1 なんか朝起きたらこのひもがコイツの小指に結んであったんだって。
男6 すごっ。運命の赤い糸じゃん。
男3 ちがうよ。ストーカーだよ。
男7 ストーカーじゃねえよ。
男4 じゃあ幽霊しかないじゃん。
男7 なくないよ。
男6 で、誰につながってたの？
男7 え？
男6 紐。
男7 え？ 誰にも繋がってないよ。
男6 え、じゃあ振られてんじゃん。
男7 振られてないよ。

男1 どんまい。
男3 ストーカーなんかこっちから振ってやりなよ。
男4 だから、幽霊だって！
男7 どっちもちがうよ！
男6 じゃあ何なんだろうな？
男3 一応、警察とかに相談したほうがよくない？
男6 それは大げさじゃない？
男3 でも、こういうのは早いほうがいいって言うし。
男7 だから、ストーカーじゃないよ。
男1 なんて？
男7 いや、なんか、そういうのじゃない気がする。
男4 やっぱ幽霊だよ。
男7 そういってもないよ。
男4 えー、お祓い行こうよ。

男2、やってくる。

男2 おつかれー。
皆 あ、おつかれー。
男2 なにやってんの？
男7 いや、なんかさ、
男2 ああ。朝起きたら小指に赤い紐が結んであって、何気なくその紐であやとりを始めてみたものの、とり方がわからなくなって悩んでいたら、みんながやってきて、ストーカーだの幽霊だの振られたたのあることないこと言いだして話が混乱してたんだ。
男7 そうなんだよ。
男6 そうだったっけ？
男7 そうだよ。
男1 で、あやとりは？
男7 あ、そうそう。この続きなんだけど、
男2 どれ？
男7 このあと。
男2 あ、これはね、ここをこうして、ここをこうすれば、ほら。

あやとり、取れる。

皆 おおー！

男2 このあとできる？

男7 えーと、ここをこうして、これで、こう！

あやとり、取れる。

男6 すごいな。俺全然わかんない。

男3 え、指どういう動きしてるの？

男4 俺、けん玉ばかりやってたからなー。

男6 俺、ベーゴマやってた。

男7 お前ら何歳なんだよ。

男5、やって来る。

男5 おつかれー。

男3 あ、ひさしぶりー

男5 ただいまー

男1 え、どっかいったの？

男5 家族旅行でさ、グアム行ってたんだよ。

男7 いいなー。

男5 いやー、十年ぶりの家族旅行だったんだけどさ、ホント楽しくて。

男4 え、なんかした？

男5 あー、スキューバダイビングと実弾射撃場いったんだけど、ダイビングの人に魚の集め方みたいの教えてもらって。(手を動かしながら)こうするんだけど。

皆 へー

男5 で、やってみただけど、親父、手じゃなくて頭に魚が集まってきちゃって。

皆、笑う。

男6 で、お土産は？

男5 え？

男6 お土産。

男5 ああ。虫。

男6 え？

男5 食べられる虫。

間。

男3 え…… グラムまで行って？

男たちの動きが止まる。

おしまい